

フィンランド語文法：初級⑨ 名詞のタイプ (-in, -us, -as) ・ 目的語

『フィンランド語との対話—吉田欣吾』

<https://yoshidakingo.com/>



名詞のタイプ (-in)

- -inタイプと次の -usタイプは“Oma Suomi 1”の176～177ページ
- 「夏期講座：資料」の12課
- -inで終わる語は道具などを表すが、語幹で -in は -ime となる。
 - avain 「鍵」 > **avaime-** [属格 avaimen]
 - puhelin 「電話」 > **puhelime-** [属格 puhelimen]
 - tulostin 「プリンター」 > **tulostime-** [属格 tulostimen]
- ただし子音で終わる語なので、分格は「主格 + -ta/-tä」
 - avain > **avainta**, puhelin > **puhelinta**, tulostin > **tulostinta**



名詞のタイプ (-us)

- -us, -ys, -os, -ös で終わる語の語幹は -ukse-, -ykse-, -okse-, -ökse-
 - kokous 「会議」 > **kokoukse-** [属格 kokouksen]
 - kysymys 「質問」 > **kysymykse-** [属格 kysymyksen]
 - kerros 「階」 > **kerrokse-** [属格 kerroksen]
 - käännös 「訳」 > **käännökse-** [属格 käännöksen]
- ただし子音で終わる語なので、分格は「主格+**-ta/-tä**」
kokousta, kysymystä, kerrosta, käännöstä
- -as, -äs, -is, -es で終わる語の中にも同じ変化をするものがある。
ananas 「パイナップル」 > **ananakse-** [属格 ananaksen] 

名詞のタイプ (-as)

- “Oma Suomi 1”の207ページ
- 「夏期講座：資料」の12課
- -as, -äs, -is で終わる語の語幹は -aa-, -ää-, -ii-
 - vieras 「客」 > **vieraa-** [属格 vieraan]
 - pylväs 「柱」 > **pylvää-** [属格 pylvään]
 - kaunis 「美しい」 > **kaunii-** [属格 kauniin]
- ただし子音で終わる語なので、分格は「主格+**-ta/-tä**」
vierasta, pylvästä, kaunista



目的語（1）

- “Oma Suomi 1”の179ページ
- 「夏期講座：資料」の31課
- これまで分格が「～を」という意味で目的語になると勉強してきたが、属格も目的語になる。つまり、属格は「～の」という意味を表すときもあれば、「～を」という意味を表すときもある。また、「～を」という意味を表す属格を「対格」と呼んで区別することがある。
- 目的語を分格にするか属格（＝対格）にするかは非常に難しい問題であり、完全に習得することはほぼ不可能。



目的語（2）

●属格（対格）の目的語＝全体目的語

⇒ 目的語全体に何らかの影響が及ぶ

Ostan **sanakirjan**. 私は辞書を買う。

（辞書的一部分だけ破って買うことはできない）

●分格の目的語＝部分目的語

⇒ 目的語は何かの全体ではなく一部分をさす

Ostan **maitoa**. 私は牛乳を買う。

（世界中の牛乳すべてを買うわけではなく、一部分がビンに入っているのを買う）



目的語 (3)

- 結果的に個体名詞は属格（対格）になることが多い。

Ostan **kirjan/auton/pyörän/talon/lipun.**

私は本を/自動車を/自転車を/家を/切符を買う。

- 結果的に物質名詞は分格になることが多い。

Ostan **viiniä/kahvia/teetä/lihaa/leipää.**

私はワインを/コーヒーを/お茶を/肉を/パンを買う。



目的語（4）

- しかし、個体名詞であっても、「否定文では分格の目的語（部分目的語）」になる。なぜなら、否定文の場合には影響は全体には及ばないから。

Ostan sanakirjan. 私は辞書を買う。

En osta sanakirjaa. 私は辞書を買わない。



目的語 (5)

- 目的語が必ず「分格の目的語（部分目的語）」になる動詞もある。その場合には、個体名詞であっても分格にする。代表的なのは次の動詞。

odottaa 待つ

ajatella 考える

käyttää 使う

auttaa 助ける

opiskella 勉強する

rakastaa 愛する



目的語（6）

- 同じ動詞が「属格（対格）＝全体目的語」をとる場合と、「分格＝部分目的語」をとる場合がある。その場合には意味に違いがある。

Hän lukee **kirjan**. 彼女は本を読む。

Hän lukee **kirjaa**. 彼女は本を読んでいる（途中だ）。

Hän ampuu **karhun**. 彼は熊を撃つ（そして仕留める）。

Hän ampuu **karhua**. 彼は熊を撃つ（が、熊は逃げる）。



kukaと人称代名詞の対格

- kukaと人称代名詞だけは、属格とは別に対格の形がある。

主格	属格「~の」	分格「~を」	対格「~を」
kuka	kenen	ketä	kenet
minä	minun	minua	minut
sinä	sinun	sinua	sinut
hän	hänen	häntä	hänet
me	meidän	meitä	meidät
te	teidän	teidä	teidät
he	heidän	heitä	heidät

